

臨床経験を活かした組織運営を目指して

森木 貴司

日本理学療法士協会 事務局

キーワード：臨床経験・組織運営・報酬制度・教育制度

今回、述べさせていただく内容は、これまでの経験・知識を踏まえた私個人の考えであることをご承知の上、ご参考いただければ幸いです。

背景

私は、大学卒業後に和歌山県立医科大学附属病院に就職、同大学大学院（修士・博士課程）にも進学し、リハビリテーション科教授の田島文博先生や本学会の大会長でもある上西啓裕先生をはじめ多くの先生方にご指導いただき、臨床、研究、教育（後輩・研修生・実習生の指導等）に努めてまいりました。その中で、理学療法においても、医学（科学的根拠）に基づいた治療の重要性を痛感し、医師の診察や様々な検査結果、理学療法評価を踏まえた治療戦略（治療方法、運動負荷設定等）を如何に考えるかを、日々、悩み、勉強し、患者さんと向き合ってきました。毎日が激務ではありましたが、非常に充実した経験をさせていただきました。

感じた様々な課題

臨床・研究等に励む一方で、リハビリテーションに関連する報酬制度や理学療法士の教育制度等に課題を感じるようになり、患者さんをより良くさせる体制にするためにはどうすればいいか、また、今後の理学療法士の社会的地位を向上させるためにも、必要なことは何かを強く意識するようになりました。

Next Stage

それで次の舞台に選んだのが日本理学療法士協会事務局でした。正直、事務局で自分の考えているような仕事ができるかどうかは不安がありましたが、実際には、まさにやりたい仕事がありました。事務局では、臨床では経験し得ない貴重な経験をさせていただき、臨床で感じた課題を解決すべく頑張っているところです。臨床と事務局（厚生労働省経験含む）では環境や立場が異なり、局所的・大局的な視点の双方を経験でき、視野が広がったと感じています。私が組織運営の意見を述べるのは烏滸がましい限りですが、組織運

営を考えるにあたっては、現場の状況を十分に把握しつつ、今後の社会情勢を鑑みた戦略的な働きが重要となり、双方の能力を兼ね備えたある種の経営者（ジェネラリスト）としての能力が求められると感じています。私自身、これらの貴重な経験を活かし、今後の理学療法の発展のために協会・士会の組織運営に携わっていきたいと考えています。

さいごに

対象者に対し治療することが理学療法士の本分だと考えていますが、現場で悩みを抱えている多くの理学療法士を救うためにも臨床経験を活かした別の働き方をする理学療法士も今以上に求められると思っています。そして、臨床における様々な課題解決を図っていくことこそが、理学療法士の「価値ある未来」につながり、結果として対象者の利益・幸せにつながると私は確信しています。そのためにも我々、会員一人一人が協会・士会運営に興味を持ち、協力・批判をしていくことが大切ではないでしょうか。思いは必ず形になると信じ、共に頑張っていきたいと思います。